

令和6年度に係る自己点検・評価の報告書

令和7年7月7日

部局名：社会文化科学研究科

1. はじめに

本件は、岡山大学自己点検・評価実施要領（令和7年4月9日大学経営戦略会議承認）に基づき、社会文化科学研究科における教育課程、学生支援、学生受入、研究及び総務に関することについて、自己点検・評価を実施し、その結果を報告するものである。

2. 実施体制・手順

学長（統括責任者）からの通知を受け、社会文化科学研究科長の指示に基づき、自己点検・評価を実施し、専攻長会議で承認を得た。

3. 総括

自己点検・評価の結果、全50項目（教育課程31項目、学生支援11項目、学生受入5、研究1、総務2）のうち、1項目について「改善を要する」、1項目について「注意が必要」と判断したが、社会文化科学研究科における教育課程、学生支援、学生受入、研究及び総務に関することについては、概ね適正に運営されていることが確認された。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

特になし。

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

○1-2-35 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則して適正な状況にあるか。

→博士後期課程の標準修業年限内修了率について、令和5年度15.38%、令和6年度23.53%と低い水準が続いている。今後、標準修業年限内での修了に向けた取り組みを検討し、今年度中に着手する。

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

特になし。

7. 点検・評価の結果、「注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

○6-2-4 実入学者数が、入学定員を大幅に超える（1.3倍以上）、又は大幅に下回る（0.7倍

以下）状況になっていないか。（実施対象年度の4月入学者及び10月入学者）

→実入学者数について、博士前期課程において入学定員の0.89倍、博士後期課程において入学定員の0.83倍であり、大幅に下回ってはいないが、注意が必要である。今後、学内進学や社会人の勧誘を強化し、定員充足を目指す。また、博士後期課程においては、過去5年間の平均は1.3倍を超えているため、定員超過対策のために定めた「博士後期課程定員管理策」も並行して運用する。

また、以下の項目については、適切であるが注意が必要と考えている。

○1-2-36 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の状況が、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則して適正な状況にあるか。

→就職及び進学の状況は、部局の目的及び学位授与の方針に則して適正な状況にあるが、学生の進路状況を把握する体制に課題が残る。進路状況の把握は、概算要求における成果

を中心とする実績状況の調査において予算に直結するものであるため、引き続き、注力する。

- 1-2-38 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果において、大学及び部局の目的並びに学位授与の方針に則した学修成果が得られていることが確認できるか。

→令和4年度に、卒業後一定期間の就業経験等を経た卒業生に岡山大学文学部の教育成果に関するアンケートを実施し、部局の目的及び学位授与の方針に則した学修成果が得られていることを確認した。次回の実施予定は令和8年度であるため、現時点では適切であると判断する。ただし、今後は、成果を中心とする実績状況に基づく配分における「卒後3年以上経過後の就労・雇用状況等の実態把握」の対応として、当該意見聴取を毎年実施することとなるため、より効果的かつ効率的な実施を目指し、実施体制、修了生への周知方法、アンケート項目など早めの検討が必要であるため、注意が必要である。

8. 点検・評価の結果、優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの
特になし。